

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902363		
法人名	有限会社 スマイルプラン		
事業所名	グループホーム スマイルプラン		
所在地	北海道旭川市永山11条2丁目2番2号		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172902363-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172902363-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏には菜園で野菜作りや収穫を楽しんだり、個々の出来る能力を生かした役割が持て、張りや楽しみのある暮らしが出来る様に取り組んでいます。  
看取りに積極的に取り組んでおり、ご家族と共に支え合い慣れ親しんだ場所で穏やかに最期を迎えられる様な支援に力をいれています。  
職員全員でより良いサービスを提供できるよう研修参加やホーム内研修を充実させています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋の建物内にあるユニットはお互いに行き来が容易であり、利用者や職員の日常的な交流があります。浴室等各ユニットの設備を利用者の身体状況などに合わせ相互利用し事業所の一体感と効率的運用に効果を上げています。  
事業所の運営理念と介護理念をミーティング、研修会、管理者のアドバイスなどから職員は理解しており、理念に基づいて毎年に職員が各自の目標を立て利用者のケアサービスに反映しています。  
町内会の夏祭りには利用者と職員が出店して菜園の野菜などの販売を行っています。買い物、散歩時の挨拶をする関係が築かれています。また町内会関係者が運営推進会議や事業所行事への参加しています。  
法人の人材育成重視による外部研修参加や内部勉強会の実施、各種マニュアル等を整備しています。また見やすく分かりやすい介護記録など諸記録様式の改善によってスムーズな事業所運営と理念に基づく職員の丁寧な支援が行われています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に支えられ、その人らしい生活が送れる」「声なき声に耳を傾け、寄り添い共に生きる」を理念とし、カンファレンス等で職員と共有し実践している。	運営理念と介護理念はミーティングや勉強会、日常業務を通して全職員が共有しています。職員一人ひとりが理念に基づいた年間及び月間目標を設定し利用者への丁寧で親身なケアサービスに反映しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に町内会の夏祭りに出店したり、近くのお店に買い物に行くなどして地域住民と交流を図っている。	町内会夏祭りへ出店して利用者と職員が菜園の収穫物などの販売をしています。事業所周辺の散歩や買い物に出かけ、周辺高齢者の見守りや挨拶を交わっています。昨年からは避難訓練への住民参加など地域の一員として日常的交流があります。	地域で挨拶をを交わす顔見知りの関係はあります。更に多くの人に知ってもらい交流の糸口となるよう、認知症グループホームについてや事業所がどんな所か理解を深めてもらうための情報発信などに取り組むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で議題に盛り込んだり、「認知症サポーター養成講座」の開催の手伝いや、地域のSO Sネットワーク会議への参加協力で認知症の理解への支援をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に行っている。行事や普段の様子を報告し、ご意見や要望を伺っている。	運営推進会議は家族及び利用者、市職員、地域や協力医療機関関係者が参加し定期的に開催しています。会議では事業所からの報告事項と参加者からの意見要望について意見交換を行い、運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域包括支援センター主催の定期的な会議で、それぞれ情報交換をしたり取り組みを報告し協力関係を築くよう取り組んでいる。	市職員の運営推進会議参加や地域包括支援センター主催会議で相談や意見交換をしています。また、管理者は資料提出や相談等で市担当窓口を訪れるなど行政との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行ったりカンファレンスでも話し合い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。防犯目的で施錠はしているが、気軽に出入り出来る様に努めている。	外部研修や内部勉強会を実施し、マニュアルの整備をしています。ミーティングや日常業務を通して身体拘束をしないケアを実践しています。事業所前の道路は交通量が多いため、ユニット入り口を施錠していますが、利用者の出入りには職員が素早く対応し、閉塞感を与えないよう配慮し、家族へも説明をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部への研修に参加している。ホーム内の勉強会ではすべての職員を対象に行い、虐待及び不適切なケアが行われない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し学んでいる。必要に応じて関係者と連携し活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、不安や疑問がないか確認しながら理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪されている時は、直接意見や要望がないか確認している。	家族の来訪時には職員と話し合いを行っています。事業所便りや担当者による手紙の郵送、電話等で利用者の様子を伝えています。家族からの意見や要望は申し送りノートに記載し、速やかに検討してサービスに反映しています。	家族からの率直な意見や要望を把握するために利用者の様子を詳細に伝えていますが、ケアの内容以外にもテーマや事案に添って全家族に問いかけるなど事業所側から意見を引き出す配慮や工夫を検討することを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の自己評価表を利用したり、普段の会話やカンファレンス等で意見や要望を確認し、働きやすい環境を整える様に努めている。	管理者と職員はミーティングや日常業務において自由に意見交換をしています。さらに、年1回全職員の自己評価表を作成し、その内容について話し合い、利用者へのサービスに活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護初任者研修や介護福祉士受験費用の一部を事業所が負担し、資格取得へのサポートでやりがいや向上心を持って働ける職場環境を整えている。個々の状況に応じて労働時間を調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃より職員にあった研修会への参加の機会を持っている。ホーム内での研修も行い職員のスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	2ヶ月毎に開催される地域包括支援センターの主催の会議に参加し、他事業所との情報交換やコミュニケーションをとっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では職員も一緒に訪問し、本人が困っていることや不安なことを把握している。他の職員とも情報を共有し、入居後にも利用者へ寄り添い良好な関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接時には不安なことや要望を確認し、できるだけ要望に沿えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望はその都度聞き、その時に必要な支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは一緒に行い、利用者と支え合う環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に相談し、協力し合い共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室への外出、信仰の集会への参加、友人との外出も継続しており、馴染みの人との関係が途切れない様に努めている。	要介護度の高い利用者が多く、外出希望も少ない現状ですが、馴染みの場所などへの外出希望があればできるだけ支援し、家族にも協力を依頼しています。家族以外の来訪者も歓迎して利用者とゆっくり過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で出来ることを役割分担し、お互いが支え合う関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族との関係性を大切にしながら必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に意向や生活歴等を確認し、落ち着いた生活できる環境作りに努めている。	職員は、日常の様子から利用者の思いや意向を把握しています。困難なときはフェイスシートなど記録の確認や利用者の様子観察などで本人本位のサービスを検討しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に意向や生活歴を確認し、落ち着いて生活できる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やカンファレンス等で職員間で情報の共有に努め日々のケアにいかせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活するため、本人、家族の意向を確認している。カンファレンスで状態を確認しながら意見を出し合い介護計画書を見直している。	利用者の介護記録や担当職員からの報告などをミーティングで確認し、カンファレンスで介護計画変更の有無を協議しています。見直しが必要な時は、利用者、家族、主治医と話し合い、利用者にとって最適の計画となるよう努め、変更内容を全職員が共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録や申し送りで共有している。実践した結果や状態を確認しながら意見を出し合い介護計画書を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望やその時の状況に応じて柔軟に対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街の夏祭りには七夕飾りを作り、夏祭りに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向を大切にしている。協力医療機関の月2回の往診と週1回の訪問看護を受けており、その他の受診は職員が同行し経過や状況を伝えている。	24時間対応の協力医療機関による月2回の訪問診療と看護師による健康チェックを毎週実施しています。かかりつけ医など他医療機関へ通院の際は、職員が付き添い、受診結果は電話連絡や受診経過表を家族へ郵送しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で健康チェックを受けている。看護師には日常の様子や体調、往診の結果など報告し適宜助言を受けている。変化や異常があれば主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も随時面会をしながら、主治医、看護師、医療相談員、家族からも情報を頂きどの程度で受け入れが可能かも伝えて早期退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には医師も交えて今後の対応など家族と十分に話し合い、意向に沿って支援出来る様に努めている。看取りの指針やマニュアル整備や研修の参加で知識と技術の向上に努めている。	事業所での看取りは可能ですが、入居時には看取りの詳細な説明を避け、状態変化に応じて家族と「看取り指針」の説明と「看取り介護についての同意書」を交わしています。職員は関連の研修受講や看取り経験者の指導のもとチームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や救急救命の講習に参加し、職員全員が実践出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。隣家を一時避難場所として協力して頂いたり、訓練には町内会の方にも参加して頂いている。	夜間想定を含めて年2回避難訓練を実施し、今年度から地域住民も参加しています。また職員間の緊急連絡訓練も行っています。災害に備えて食料品等の備蓄をしています。災害の状態に応じて東川にある系列事業所での避難受入などの連携体制もあります。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加や内部研修も行い、利用者本位、尊厳の保持を心がけた対応に努めている。	利用者の呼び方や支援の際に本人の気持ちを考えて誇りやプライバシーを損ねないように配慮しており、職員間で確認もしています。個人情報に関連する資料も外部の人が勝手に閲覧できないよう管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞ける環境作りに努め、要望を含めて自己決定を尊重した関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の状況に合わせて生活できる様、またその時に出来ることはゆっくり本人のペースに合わせて行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの美容室への外出や訪問理容を利用している。職員と一緒に衣類を選び、季節にあったオシャレが楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理やもりつけをしたり、後片づけのお手伝いなど役割を持ってもらっている。	菜園の野菜も使用し、利用者の嗜好や病状に配慮した献立です。利用者は調理の手伝いなどで役割をもって参加をしています。通常の食事以外に季節行事や誕生日の特別献立、駐車場でバーベキューなども行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ残さず食べられる量で、嫌いな食品も把握して提供している。水分も必要量が摂れるようにチェックしている。摂取能力に応じた形態を適宜見直しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔ケアの研修を受けたり、歯科医と連携し適切な口腔ケアに努めている。状況に応じたブラシやマウスウォッシュ、保湿液を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやパットの使用を減らせる様に、適宜誘導時間を見直している。カンファレンスで実施状況や振り返りを行っている。	自立排泄の困難な利用者には排泄チェック表に基づいて時間間隔や様子などを見極めながらさりげなく誘導でトイレ排泄支援を行っています。身体状況を確認しながらできるだけおむつやパットの使用を減らし、布パンツで快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分量が摂れ、食物繊維の多い食材、乳製品やオリゴ糖等を摂り、出来るだけ下剤を使用しないような取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	浴室は週6日使用出来る様にし、利用者の希望や体調に合わせて曜日や時間が変更出来る様にしている。	日曜以外の毎日、利用者の希望に合わせて日中に入浴を実施しています。並んで設置されているユニットごとの浴室は広さや形態が異なり、所属ユニットに関係なく、利用者の状態に適した浴室を使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。本人の希望や体調を考慮し、居室やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や薬剤表はファイルしている。処方が変わった時には申し送りなどで情報を共有している。状態の変化など適宜医療機関との連携が取れる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや一緒に楽しめることを見つけ出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望に出来るだけ沿えるように努め、家族や友人にも協力頂いている。外出行事は入居者の希望を取り入れながら企画してる。	外出は利用者の希望も配慮し、事業所周辺の散歩や買い物をしています。、町内会の祭りや出店の手伝い、利用者が作った作品見学、イチゴ狩りなどできるだけ戸外に出る機会を持つように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金を所持したり買い物の支払が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に家族や友人に連絡をしたり、電話をつないでいる。手紙などのやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感のあるものやその時期の行事の物を取り入れている。利用者の作品や写真も飾っている。ソファに座ってテレビを見たり、音楽を聞いたり居心地良く過ごせる様に工夫している。	明るく広い居間兼食堂は季節の飾りや行事の写真などが飾られ、ソファがある場所で利用者は日中を過ごしています。浴室やトイレなどの共有空間も温度管理と清掃に気をつけて不快感を与えないようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に喫煙スペースを設けている。テーブルやソファの位置も検討し、気の合う方の会話を楽しめるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ馴染みの家具など使い慣れたものを持参して頂き、居心地良く過ごせる様にしている。	居室内の電動ベットは備え付けですが、それまでの習慣や身体状況により布団も使用できます。室内にはタンスや使い慣れた物品類を自由に持ち込み、壁面には家族の写真や手作り作品を飾り、安心してゆったりと過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置したり、わかりやすいように表示している。安全に過ごせる様に家具の配置や環境整備に努めている。		